

くまもと林業大学校で講義

熊本県では次世代をリードする林業担い手の育成と確保を目的として、平成31年4月にくまもと林業大学校を開校しましたが、本年度も(公財)熊本県林業従事者育成基金からの依頼を受けて、川畑充郎署長が林業政策「国有林野の役割と具体的な取組」と題して、6月7日に県北校(熊本県林業研究・研修センター)の学生12名に対して講義を行いました。

講義では、まず林野庁全体の組織と業務内容を説明した後、九州森林管理局及び当署のパンフレットや令和3年度の重点取組事項等により国有林の役割と具体的な取組について、また現在検討中の新たな森林・林業基本計画案について説明し、学生たちは熱心に受講しました。

最後の質疑応答では、森林経営管理制度のしくみと現在の進捗状況について、熊本南部署管内の「低コストモデル実証団地」の試験内容、一貫作業システムのしくみや実施状況等について質問が出され、学生たちの真面目で前向きな勉強態度とこれからの熊本県の林業を自分たちが担っていくんだとの意気込みを強く感じられ、大変頼もしい限りでした。

当署としては、引き続きくまもと林業大学校をはじめその他の民有林関係機関からの要請等に対して、積極的に対応していく考えです。



講義する川畑署長